ずいそう

「日本 100 名城」 めぐりのすすめ



加藤雅美

初めまして。30代会社員、2児の母です。ご縁あって今回ずいそう原稿作成の依頼をいただき、趣味の「日本100名城」めぐりについて書いてみたいと思います。

1. 「日本 100 名城」とは

Wikipediaより引用すると、「日本100名城」とは、数ある日本の城のうち財団法人日本城郭協会が2006年に定めた名城の一覧である。同協会が2007年に迎える設立40周年の記念事業の一環として、2005年に日本国内の名城と呼ばれる城郭を公募し、2006年4月6日の「城の日」に認定した(発表は同年2月13日)。観光地としての知名度や文化財や歴史上の重要性、復元の正確性などを基準にして、歴史や建築の専門家などが審査の上で選定したとされる。2007年6月2日からは、選定された全国の100城を巡る『「日本100名城」選定記念スタンプラリー』が開始された。(引用終わり)

「日本100名城公式ガイドブック」によると、選定基準は①優れた文化財・史跡であること、②著名な歴史の舞台であること、③時代・地域の代表であること、とあります。城は弥生時代に誕生し、古代・中世と変遷をとげ、織豊時代に日本独自の美しい近世城郭を完成させ、幕末にその役割を終えました。「日本100名城」はいずれも各時代・地域を代表する専門家が厳選した名城で、それぞれに見どころがあり、楽しみながら日本の歴史を学ぶことができます。公式ガイドブックには各城の見どころやアクセス方法はもちろん、城の見方などの城に関する基礎知識も盛り込まれ、「日本100名城」めぐりには必携の1冊です。

2. 私が思う「日本 100 名城」の魅力

① 47 都道府県すべてにある

「日本 100 名城」すべてをめぐると、47 都道府県すべてに行くことができます。自分の住んでいる都道府県にも1つは必ずあり、誰にでも始めやすいと思います。

②スタンプラリー

「日本100名城公式ガイドブック」には、スタンプ



ガイドブック:「日本 100 名城」公式ガイドブックとスタンプ帳。旅の必携アイテム

帳が付属しています。城を訪ねてスタンプ帳にスタンプを押すと、訪問の記念になり、達成感もあり、不思議とさらに集めたくなっていきます。

③建築物だけではない見どころを気づかせてくれる 城というと,真っ先に城郭建築の象徴ともいえる「天守」を思い浮かべる方が多いのではないかと思います。 数ある天守の中でも現存 12 天守は特にすばらしく,美しい姿が魅力ですが,「日本 100 名城」には天守が ない城も多数含まれています。後にも述べますが,城の楽しみ方は人それぞれ,山城をハイキング気分でめ ぐるもよし,整備された公園をゆっくり散歩するもよし,ご当地グルメを楽しむもよし,きっと自分なりの楽しみ方が見つかると思います。

3. 個人的な楽しみ方

城の楽しみ方は人それぞれ、私の個人的な楽しみ方を紹介します。

①写真を撮る

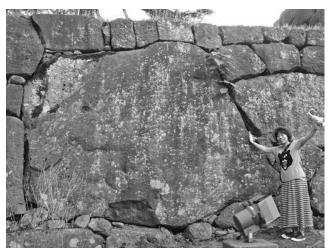
カメラに詳しくはありませんが、城に行くと写真を

撮りたくなります。美しい天守を眺めながら周囲を ゆっくり歩き、自分のお気に入りの角度を見つけると 嬉しくなります。

天守はなくとも印象的だったのが津山城です。「よみがえれ!津山城天守」というアプリをスマホにダウンロードし、指定の場所で天守のあった方向を撮影すると、失われた天守が現在の風景の中に再現されるもので、天守と一緒に記念撮影も可能です。時代の流れを感じます。

②石垣チェック

石垣には大小様々な石が積まれていますが、中には ひときわ目を引く巨石がある場合があります。「これ だけ大きな石を運ばせることができる」という城主の 権力の大きさを示すもので、石垣を見つけると宝探し 気分で探しています。



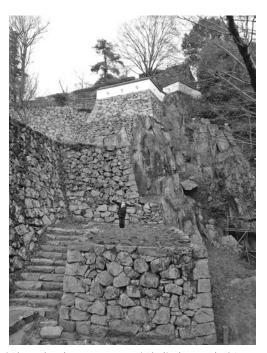
金沢城:石垣の巨石発見

石垣は時代により石の積み方が異なります。二本松 城は城内に野面積と打込接という異なる積み方の石垣 を見ることができて興味深いです。城をめぐるうちに、 だんだんと視点がマニアックになっていくのを感じま す。

③先人に思いを馳せる

「こんな山の上にどうやって城を築いたのだろう」 「どうやってこんな大きな石を運んだのだろう」「どう やってこんな大きな堀を掘ったのだろう」等、電気も 車もない時代に城を築いた先人の計り知れない苦労に 思いを馳せます。

安土山に登ると、「織田信長もここに立って同じように山からの景色を眺めたのだろうか」などと考えて しまいます。気分は戦国武将です。



備中松山城:日本一高いところにある山城(標高 430 m)大河ドラマ「真田丸」のオープニング CG でも使用されている。こんなに高いところにこんな石垣を…(写真中央で手を広げているのが筆者)

④ご当地グルメ

これは城めぐりに限ったことではありませんが、旅行の楽しみのひとつに食事があります。高知城を眺めながら食べたアイスクリン、後楽園のビアガーデンでライトアップされた岡山城を見ながら飲むビール、城とグルメを一緒に楽しむのもまた一興です。

4. 私の好きな城

さまざまな城をめぐってきましたが、現在の一番のお気に入りは松本城(長野県)です。現存12天守のなかでも国宝に指定された4城(他は姫路城,犬山城,彦根城)のひとつで、北アルプスの山々を背景に、水堀に囲まれどっしりとそびえる黒い天守の姿がとても美しいです。松本城は戦を経験したことのない城ですが、天守には矢狭間や鉄砲狭間、石落としなど、戦に備えた設備が多くみられ、軍事施設としての武骨な雰囲気が感じられます。

これと対照的なのが、天守に併設された月見櫓です。 江戸時代の泰平の世に、3代将軍徳川家光が松本城に宿をとることになり築造されたものです。薄い板戸だけの建物で、三方を朱色の漆が塗られた刎ね勾欄を施した回縁がめぐっており、黒い天守に月見櫓の朱色がひときわ映えます。結局徳川家光は道中の落石等により松本城には来なかったようですが、この平和の時代を象徴した月見櫓と、武骨な天守とのコントラストが他の城にはない松本城の魅力です。



松本城:天守と月見櫓(右端)。私はこの角度の松本城が一番好き

5. おわりに

私が「日本 100 名城」を知ったのは、大学の同級生がテレビで見た「日本 100 名城」めぐりにはまり、地元の川越城に一緒に行かないかと誘ってくれたからでした。これがきっかけとなり、この同級生が現在の主人です。「日本 100 名城」がなかったら、今の私はなかったかもしれません。そう思うと、「日本 100 名城」には本当に感謝しています。元々日本史と旅行が好きだった私も「日本 100 名城」めぐりが好きになり、今では夫婦の共通の趣味として楽しんでいます。

現在 100 城のうち約半分をめぐったところです。近郊の城からめぐったために遠方の城が多く残っていることや、家族が増えたことで城めぐりのペースは近年落ち着いていますが、家族共通の趣味、ライフワークとして、いつの日か 100 城制覇をめざしてゆっくり続けていきたいと思います。

「日本100名城」めぐりの楽しみ方は人それぞれ、もし少しでも興味を持たれたら、まずは地元のお城をチェックしてみてはいかがでしょうか。これまで知らなかった、新しい発見があるかもしれません。

――かとうまさみ (株)ヤザワコーポレーション――

